

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3771400243
法人名	株式会社ひまわり
事業所名	ひまわりの家
所在地	香川県高松市香川町大野901-1 (電話) 087-885-6661

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年10月1日	評価決定日	平成19年12月17日

## 【情報提供票より】(19年4月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)12年12月1日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	33人	常勤	26人、非常勤 7人、常勤換算 7.2人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨不燃造り 2階建ての1階～2階部分
------	------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円	その他の経費(月額)	20,000円+実費	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,400円				

### (4) 利用者の概要

利用者人数	27名	男性	3名	女性	24名
要介護1	8名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	4名	要支援2	1名		
年齢	平均 84歳	最低	72歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	谷本内科医院、高松病院、屋島総合病院歯科、高橋歯科
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営理念を「ひとにやさしく、まごころこめて、わをたいせつに、りんじんとともに」に見直し、ホームの玄関等への掲示等から、代表者でもある管理者の仕事への熱意が伝わってくる。明るくいそぎした職員と利用者、地域住民との交流が盛んで、ボランティアとも気軽に行き来する家庭的な馴染みの関係ができています。利用者が一番の楽しみである食事作りは、利用者の力にあわせ、「ひまわり農園」の新鮮な季節の食材で手作りしている。また、盛りつけにも細やかな配慮がうかがえる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	代表者・管理者を中心に、良いチームワークで運営理念を見直し、きめ細かい取り組みがなされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、ユニット単位の全職員で行い、利用者が安全で、安心して、楽しく生活できる環境づくりへの取り組みがうかがえる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回、利用者代表も参加して開催している。事業所の状況報告や参加者からの意見、要望について話し合い、その中の貴重な意見を、さらに、質の向上に活かせるよう取り組まれている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に、意見や要望を気軽に話せるよう働きかけ、意見を運営に反映している。また、意見箱を設置している。毎月1回「ひまわり便り」を家族に送付している。 なお、家族の安心、信頼関係作りの一貫として、「ひまわり便り」に利用者個々の様子を一言書き加えることが望まれる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事に積極的に参加し、地域住民やボランティアの人々も気軽に立ち寄り、交流を深めている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員の協議のうえ、花言葉で、ひまわり独自の理念を作っている。また、「ひまわりの家」のパンフレットは、職員が手づくりしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を共有し、毎日の朝礼時に全員で唱和しており、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、地域の敬老会、運動会に参加する等、自治会の人々と交流を深めている。また、地域のボランティアが、太鼓や買物、散歩時などに気軽に立ち寄っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、評価の意義を理解しており、ユニット単位で自己評価を行い、利用者の生活の質向上について、前向きに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表も参加して、2か月ごとに運営推進会議を開催し、事業所からAED(自動体外式除細動器)設置等の状況報告や意見交換を行い、地域からも理解されており、協力関係もできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外でも、地域包括支援センターや市担当者の方との連携をとり、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時に、金銭管理帳に目を通してもらい、サインをしてもらっている。また、毎月、ひまわり便りを発行し、利用者家族へ手渡しているが、県外などで、毎月面会に来られない家族もいる。	○	ひまわり便りを手渡す際に、利用者の様子を手書きで一言追加することにより、家族の安心、信頼関係への配慮につながると思われるので、今後の取り組みに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、意見、要望を気軽に伝えてもらうよう、職員から働きかけており、意見は運営に反映している。また、玄関には意見箱を設置しているが、意見は入っていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職はほとんどない。産休要員も併設のデイサービスから異動するなど、利用者の馴染みの職員が関わられるようにし、利用者へのダメージを最小限に防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者が、職員育成を認識して取り組んでいる。ホーム内の勉強会は、毎月1回定期的に行い、外部研修には、職員の段階に応じて、出張扱いで参加している。また、その内容については、勉強会で伝達報告し、共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修に参加したり、近隣のグループホームとの情報交換を行い、質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスの利用等は、家族と十分話しあい、利用者が納得したうえで、職員との馴染みから、徐々に他の利用者と馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のできることを尊重し、野菜や花作り、裁縫など、共に喜び、支えあう家庭的な雰囲気がうかがえる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望の把握に努め、希望が最大限に聞き入れられるように対応している。また、ボランティアや家族の協力を得て、外出の回数を増やせるように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族、関係者と話し合い、意見やアイデアを取り入れながら、個別の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には、3か月に1回見直しをしている。利用者の状況や変化時には、家族や関係者と話しあい、見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスが併設されており、ホームの利用者がデイサービスのレクリエーションに参加したり、また、デイサービス利用者がホームを訪問する等、柔軟な対応で支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の希望や、納得する医療機関での受診、往診が受けられるよう支援している。また、受診時は、事業所専属の介護タクシーで送迎をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重症化した場合や終末期については、医療機関や事業所責任者、家族等と話し合い、利用者の希望に添えるような体制ができています。また、職員は方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを損ねない言葉かけや対応、カルテ等の個人情報の取り扱いについて、職員間で共有している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外食や外出の機会、夜間のテレビ等は、利用者のペースを大切に、快適に過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、職員と利用者が一緒にすべて手づくりをしている。一人ひとりの健康状態や好みに合わせた盛り付け、調理方法の工夫をしている。また、職員は利用者と同じテーブルで、気配りしながら、楽しんで食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特殊入浴、普通入浴は週2回行っている。また、利用者の希望に合わせた時間帯や、毎日の入浴なども支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や、裁縫、野菜作り、書道、絵手紙など、趣味を活かした生活が送れるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や外出、外食、喫茶等、個々の希望と体調に心がけ、車椅子でも参加できる支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全面を確保しながら、自由に出入りできる支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練は、年2回実施している。訓練には、地域の人々や事業所関係者の協力が得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量は個人記録に書きこみ、栄養状況を把握している。また、おやつは手づくりで、栄養バランスや水分量が確保できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、くつろげる和室やリビングの花、手書きの絵にも季節感を演出し、居心地よく過ごせる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は使いなれた家具を置いたり、思い出の写真を飾るなど、落ち着いた雰囲気の中で生活できるよう配慮されている。		